

## 平成30年度第1回横須賀市自殺対策連絡会会議録

- ・ 日 時 平成30年7月4日（水）午後3時00分から午後5時00分まで
- ・ 場 所 横須賀市保健所 第1研修室
- ・ 出席者 阿瀬川孝治、岸信明、大滝紀宏、岡崎敏明、奥津和弘、小澤公雄、奥原孝幸、工藤幸久、小泉姿子（代理）、今野幸子、竹村一雄、田中知己、中島直行、福原剛、藤尾聡允（代理）、船木一人、松本義弘、松山公紀、森田佳重、森山由実、山崎亨  
(敬称略、五十音順)
- ・ 事務局 内田康之 : 健康部長  
小林利彰 : 保健所長  
梅澤徳之 : 保健所健康づくり課長  
小菅俊彦 : 保健所健康づくり課こころの健康係長  
桑畑小夜 : 保健所健康づくり課こころの健康係主任  
亀田千尋 : 保健所健康づくり課こころの健康係  
山口雅子 : 保健所健康づくり課こころの健康係

### 1 開 会

### 2 健康部長のあいさつ

### 3 構成員の紹介

2名の代理出席及び3名の欠席により、構成員総数24名中、21名が参加。

### 4 傍聴者2名の報告

### 5 議 事

座長が挨拶の後、議事進行を行った。

(座長)

議事(1)について事務局から説明をお願いします。

事務局から、資料に基づき説明をした。

(座長)

事務局からの説明に対して、質問や意見はありますか。

質問がないようなので、私から。高齢者の自殺が増えている現状が見えているが、分析をする必要があり、今後やるべきことは何かあるか。

(田中構成員)

50代のひきこもりは増加傾向にあり、その陰に8050問題がある。親が子を支援していたが、見られない状況が生じている。自立していない人は、今後も増え続けるであろう。

(座長)

今後、検討していく必要がある。クロス集計等をして、同居人や方法等を見ていく必要がある。

(森田構成員)

資料P16(10)について 未遂者支援の希死念慮の有無はいつの段階のことを指しているのか。

(事務局)

未遂者支援の際、訪問時もしくは退院時に確認をするが全件ではない。確認時期に関しては、そのケースにもよるが落ち着いた段階での確認になる。

(中島構成員)

資料P14 50代、70代の平成30年4月までのデータの中で、若者の自殺が大変目立つ。何か傾向や特徴はあるのか。

(事務局)

分析はできていないため、今後、分析をしていく。

(座長)

議事(2)について事務局へ説明をお願いします。

事務局から、資料に基づき説明をした。

(座長)

議事(2)に、質問や意見はありますか。

(藤尾構成員)

横須賀市を始め各地で自死遺族分かち合いの会やゲートキーパー研修会等を実施している。毎月30～40名ご遺族とお会いしてその声を聴く中から、自死者の多くは真面目で責任感の強い人物像が浮かび上がる。

当市自殺対策の市民への周知策の一つとして、隔月開催の分かち合いの会のお知らせを毎月広報に載せて欲しい。開催のお知らせを見ること(分かち合える場があること)で安心でき、また1ヶ月生きられるという声に何度も接している。たとえ出席できなくてもアナウンスメント効果として機能すると考える。また、自死の誤解を解き理解を得るためにも、チラシなどを警察、病院、図書館など色々なところに置いてはどうか。

若者向けのセーフティーネットとしてはSNSが有効ではある。しかし、一晩で200通を超えるやり取り

も報告されており、担当者の心の負担が重く受け入れ体制を整えるなど課題は多い。

（松山構成員）

このようなアンケートは初めてなのか。

（事務局）

初めてである。

（松山構成員）

今後も定期的に実施することで、比較検証ができるのではないかと。経年変化をみたり、他市との比較をしたりすることで、施策等の評価ができるのではないかと。

（座長）

定期的に行っていただきたい。アンケートが届くことで自殺対策にもなるのではないかと。

（竹村構成員）

問 22～25 に関して、76 人に再度聞き直したらよいのではないかと。全体数からではない何かがあるのではないかと。

（事務局）

76 人のクロス集計で、発表させていただく。

（座長）

リスクの高い人へのアプローチになるので検討してほしい。最終的に公表するのか。

（事務局）

検討し、何らかの形で公表する。

（座長）

市民に還元してほしい。

議事（3）について事務局より資料に基づき説明をした。

（大滝構成員）

市民が、これだけ自殺対策を知らないことはショックだった。根本的に考え周知の努力が必要だ。また、平成 29 年度の自殺増加が心配である。今後はこの二点を踏まえて、自殺対策を考える必要がある。

（森田構成員）

周産期メンタルヘルスについても検討する必要がある。母子保健において、虐待での死亡は0歳児が多い。児童虐待防止のためにも、妊産婦への支援が必要と考える。産後ケアも含め、周産期へも踏み込んでほしい。

（座長）

追加すると、横須賀市でも今年度から多職種多機関による周産期メンタルヘルスの会を開催している。妊婦死亡率の1位は自殺である。周産期への踏み込みも、必要と考える。計画の実現に向けて、どのように考えていくか。

（事務局）

横須賀市として、検討していく。

（座長）

PDCA サイクルを確認していくチェック機関は、どこになるのか。

（事務局）

横須賀市自殺対策計画策定委員会は、平成31年3月で終了するが、推進体制はこれから検討していく。

議事（4）について各構成委員より、取組、施策について説明をした。

以下、各構成委員よりの発言を示す。

（大滝構成員）

医師会では、勤務者のメンタルヘルス、周産期のメンタルヘルス、認知症に対し多職種連携を図っている。従来、家族が担ってきたが、現状は困難となっている。参加している諸機関で連携していきたい。

（今野構成員）

民生委員の日頃の見守り活動は、一人暮らしの高齢者が中心となっている。自殺未遂者に関する相談は少ない。民生委員にも自殺対策の研修や普及啓発活動が必要と考える。

（森山構成員）

失業者の支援を行っている。失業は本人にとって高いストレスである。現在は人手不足といわれる時代であり、求人倍率は1倍。しかし50%が介護と建設関係。残り50%から仕事を探す現状では、2人で1つの仕事を選択しあうことになる。現状は決して安泰ではない。自殺に限らず個々の話に丁寧に対応していく。

（松山構成員）

自殺に限定することなく、ポータルサイト「こころの耳」やその他のメンタルヘルス対策の専門窓口を紹介している。長時間労働や過重労働をふせぐための法令改正や、ストレスチェック制度についても制度についても周知を図っていく。

（工藤構成員）

企業の継続支援を行っている。経営者の健康管理、生活習慣病健診等経営者の健康を守る支援を行っている。

（中島構成員）

こころの電話にかけてくる人は、中高年が多く若者は少ない。相談内容は未解決で長期化している傾向がある。傾聴が中心で、問題の中で生きていく人たちの支援となる。今年もボランティア養成研修を行う。スケジュールもハードであるが、皆様にも周知をお願いしたい。病気の方は、自殺リスクが高く、寄り添う支援を行っている。

（松本構成員）

財団の実績から報告。就職、転職、復職相談である。休職、職場の人間関係、パワハラ、部下の扱い、給与、仕事量の多さ、家庭問題の相談となっている。多いのは転職、就職、パワハラである。産業振興、中小企業支援、起業の促進等の支援、相談を行っている。

（岡崎構成員）

家出、行方不明は自殺企図につながる可能性もある。パンフレットを手渡すようにしている。自殺企図のある子や親とは、定期的に面会を行っている。誰かにつながる支援が必要と考え、対応している。

（竹村構成員）

自殺をしようとする人を探すことは、警察として難しい。自殺の通報で介入するが、死亡後の取り扱いが多い。未遂の把握があれば、関係機関につなげていく。

（船木構成員）

自殺の相談を受ける機会が多い。子ども、高齢者、精神的に不安定な人のサインを見逃さないようにしている。自殺を考える人は、夜間一人の時が多いと思われる。夜間は、事件対応になってしまう。すべての署員が、自殺対策に精通している訳ではない。この連絡会の情報を署内に持ち帰り共有していく。

（山崎構成員）

教員の研修を行っている。初任者にはタイムマネジメント、管理職には働き方改革の研修。若い先生には研修後アンケート用紙に指導上困っていることがあれば記入してもらい、指導主事が電話したり、学校訪問したりして対応している。

（小泉構成員）

児童生徒に命の大切さを実感し、自尊感情を育てる教育活動をしている。支援教育研修講座で、子どもものいじめ、「不登校の未然防止」、「自傷行為の理解と援助」等の教員向けの研修会を実施している。相談室等の居場所作りを充実させる取り組みも行っている。スクールカウンセラー、専門職と連携し、支援体制の充実を図っている。

（岸構成員）

消防署では 119 番での初動対応、傷病者との接し方の教育を行っている。また、ゲートキーパー研修も積極的に受けている。

（森田構成員）

すべての妊産婦の、うつや自殺の不安のグレーゾーンの早期発見に努めている。

（奥津構成員）

子ども、保護者には子育てホットラインで対応している。夜中に泣きながら連絡が入るので、傾聴している。

アンケート結果からは、健康問題がトップになっている。難病、障害等は周りから助けることが難しい。健康問題を抱えるケースにどう係わるかが、難しい問題である。

（田中構成員）

現状では高齢者は 65 歳以上ではなく 80 歳以上であろう。65 歳から 80 歳にどう対応するか。介護予防に力を入れるが、それが自殺対策につながるのではないか。一人暮らしに重点をおいていたが、問題家庭への対応が必要と思われる。

（福原構成員）

デュオよこすかでは年間 600 件の相談があり、必要な機関につなげている。人権施策推進指針の改訂を行っており、分野別課題に自死（自殺）・自死遺族をとりあげる方向で検討している。

（小澤構成員）

市民相談室 5 人で対応している。どこに相談したらよいかわからない相談が多い。案内が役割となっている。聞いてほしいという相談、解決できない相談もある。

（藤尾構成員）

ある行政窓口に行った帰りに自死した人がいた。行政組織内では正しい対応であってもうつ病患者には死ぬほど辛く、時にはかけた言葉が引き金になってしまうこともある。異常を察知したら専門機関あるいは保健所など適切な窓口につなぐ支援が必要。そのためにもプロットラインで動く人にもゲートキーパー研修（うつ病の理解や傾聴法など）を受けてほしい。

(副座長)

街頭キャンペーンに学生と参加している。ゲートキーパー養成講座、連携は重要である。自殺者が減るような支援が必要である。

(座長)

様々な取り組み提案を基に、相談していきたい。  
事務局より連絡事項があれば、願います。

(事務局)

9月の自殺対策予防週間に、街頭キャンペーンを実施する。  
詳細については、担当者より別途連絡させて頂く。  
次回連絡会は1月9日 水曜日 横須賀市保健所第1研修室で開催する。

(座長)

今回、自殺対策計画(案)に皆様の取り組みを盛り込ませていただくことでよろしいか。  
今後、見える化が必要になる。生きる包括的支援のために、見える化の数値提供をお願いしたい。

(事務局)

阿瀬川座長におかれましては、長時間にわたり議事進行をありがとうございました。  
他の皆さまにおかれましても、長時間ご審議をいただきありがとうございました。  
それでは、これをもちまして、平成30年度第1回横須賀市自殺対策連絡会を閉会とする。

※この議事録は、構成員等の発言を事務局において要点筆記したものです。